

北海道の国立公園におけるカフェ事例紹介

川湯エコミュージアムセンター（EMC）へのカフェ導入

- ・ 満喫プロジェクトにおける「公共施設の民間開放」という課題に対応するため、川湯エコミュージアムセンター（以下、川湯 EMC）の2階を改修し、カフェスペースを整備。
- ・ 国立公園の環境省直轄ビジターセンターとしては、民間事業者を公募してカフェを運営するのは初めての事例。飲食の提供だけでなく、地域の自然情報や観光情報を提供する「コンシェルジュカフェ」がコンセプト。
- ・ カフェの運営自体は収益性が高くなく、公的な役割も求められる中で、民間事業として継続的、安定的に運営できるかが課題。



川湯 EMC の外観

川湯 EMC は、阿寒摩周国立公園摩周・屈斜路地域の中で、自然と人間との繋がりを考え、体験することを目的とした施設とフィールドが一体となった施設となっている。国立公園満喫プロジェクトにおける民間活用を推進するため、人や情報が集まる空間となるようカフェスペースやツアーデスクを新たに整備し、官民連携でのサービス向上に取り組んでいる。



カフェスペース



地元の素材を使った軽食を提供

（出典：国立公園 満喫プロジェクト取組事例集 環境省）



(写真出典：河口洋一)